

令和5年度 多摩地区指導主事及び学校リーダー研修会（第3回）
「通常の学級と特別支援教室との連携・協力による指導や支援の充実」

日野市教育委員会の取組

ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に

1. はじめに 市立学校について
2. 市の取組について
3. 市立学校における実践事例紹介
4. 学校リーダーとしての特別支援教育コーディネーター

1. はじめに 市立学校について

小学校17校、中学校8校（市立幼稚園3園）

令和5年5月1日現在 小学生 9,376名 中学生 4,313名

（市立幼稚園在籍58名）



・特別支援学級（知的障害）

・特別支援学級（自閉症・情緒障害）

・特別支援学級（病弱）

・通級指導学級（言語・難聴）

・特別支援教室（ステップ教室）

・リソースルーム（市独自事業）

市立小学校6校、中学校3校

市立小学校1校、中学校2校

市立小学校1校（市立病院内）

言語：市立小学校2校 難聴：市立小学校1校

市立小・中学校全校

（拠点小学校8校、中学校4校）

市立小・中学校全校に設置

2. 市の取組について

平成19年度から全国でスタートした特別支援教育に対して、一年前倒して平成18年度を特別支援教育の本格スタートとして位置づけた。

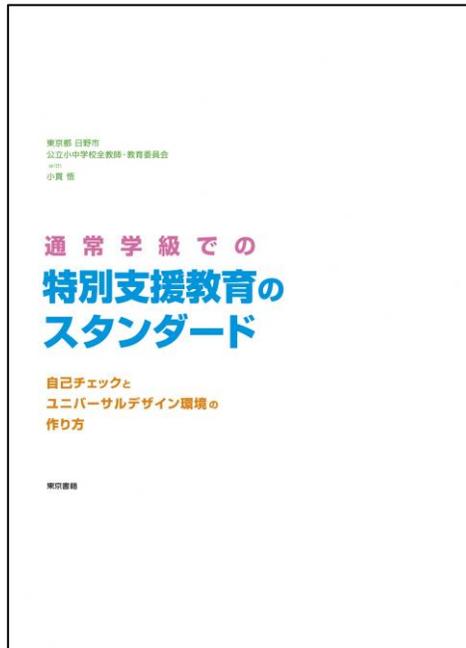
平成19年度 日野市特別支援教育推進計画の策定

平成19年3月 「特別支援教育の手引き」発行

平成22年8月 「通常学級での特別支援教育のスタンダード」発行

平成26年4月 「特別支援教育スタンダード 校内委員会の1年間月別マニュアル」発行

日野市発達・教育支援センター「エール」を開設



「通常学級での特別支援教育のスタンダード」
東京書籍



「通常学級での特別支援教育のスタンダード
校内委員会の1年間月別マニュアル」
東洋館出版社



「エール」は、0歳から18歳までの発達面、行動面、学校生活面において支援を必要とする子ども、子どもの育ちについて不安がある保護者の総合的な相談・支援機関です。福祉部門と教育部門の部署がセンターに設置され、子どもの育ちに関する相談窓口を一本化し、福祉と教育が一体となって継続的に支援する仕組みとなっています。

2. 市の取組について

平成25年度～令和2年度 文部科学省委託事業「発達障害理解推進拠点事業」

令和2年度～令和4年度 東京都教育委員会委託事業「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」

これらの研究の成果を生かし、令和5年度から「第6次日野市特別支援教育推進計画」に基づき特別支援教育を進めています。

表紙に掲載されている言葉

ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(1) 子どもの特性への理解を図るとともに特別支援教育の視点を生かした質の高い教育を行います。

○学校における特別支援教育の推進体制として校内委員会の充実を図ります。

○「未来に向けた学びと育ちの基本構想（第3次日野市学校教育基本構想）」に示されている「一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ」及び「自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ」の充実を図ります。

○授業のユニバーサルデザイン化を中心にした通常学級での特別支援教育「ひのスタンダード」の実践と更新を通し、全ての教員が子どもの特性への理解を深め、指導力向上に取り組みます。また、特別支援学級の教員には、専門性向上を図る取組を充実させます。

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(1) 子どもの特性への理解を図るとともに特別支援教育の視点を生かした質の高い教育を行います。

○学校における特別支援教育の推進体制として校内委員会の充実を図ります。

- ・ 特別支援教育コーディネーターの複数指名
 - ・ 校内委員会で行うことの明確化
 - ・ 定期的な校内委員会の開催
 - ・ スクールソーシャルワーカーが入りやすい環境づくり
- 等



スクールソーシャルワーカーは日野市発達・教育支援センター「エール」と日野市子ども家庭支援センターの両方に所属しています。

※教育委員会と市長部局の兼務発令が出ている職員がおり、組織的に福祉と教育の一体化が図られています。

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(1) 子どもの特性への理解を図るとともに特別支援教育の視点を生かした**質の高い教育**を行います。

あなたの **わくわく** を大切にします

あなたのわくわくを書いて、みんなと共有しましょう！

いつでも どこでも 学びと育ち

地域とのかかわり、家庭の会話、友達との遊びなど今を生きるそのすべてが、学びと育ちの場です。特に子供たちは大人の言葉や行動から多くを学び、育ちます。

地域、家庭、学校、そして子供たち、それぞれが互いを思いやり、学び合い育ち合うのが日野市です。

ひとりひとりへのまなざしと支援

人は個性や特性、強みと弱み、いろいろなものをもって生まれます。そして、元気な時もあれば辛さを抱える時もあります。

どんな時も、安心して自分を出して伸びていけるよう応援します。

みんながつながって、たくさん学びと育ちの支援のメニューを用意してしっかりと応援していきます。

ほっとも、エール、カウンセラー、ソーシャルワーカー、児童館、学童クラブ、ひのち、子ども家庭支援センター、セーフティネット、そして学校。

みんなつながって、みんなのあたたかなまなざしと、ありのままでもいいんだよ、すごいね、ありがとうに包まれて。

遊び

子供は、見て触れて感じて試して、失敗してもまた考えながら遊ぶ。わくわくどきどきの体験があふれ出す。やりたいことに集中し、粘り強く一生懸命になる。水や土、緑に手を伸ばすといのちが吹き込まれて仲間になる。こころもからだもたくましく動かしながら遊ぶ。大切な友達と一緒に。

生活

子供は生活の中で優しさに包まれていると、ありのままの自分であらう。自分を受けとめてもらい幸せ感を膨らませる。ありがとうと言われると、こころが笑顔になる。よくやっとならぬと認められると、やる気が出て自分でも進もうとする。光あふれる明日へ。

みんな **対話** をしながらつくりあげていく
学び合い育ち合いのわくわくムーブメント

★みんなでつくっていきます ★みんなができることから始めます
★みんなで責任をもちます ★みんながゆっくり進みます

一律一斉の学びから 自分に合った 多様な学びと学び方へ

- ひとりひとり学びへの興味も理解のしかたも違います。自分に合った学び方で学んでいきます
- 自ら設定した目標に向かって、自らの力を最大限に引き出していきます
- 分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土を大切にしていきます

自分たちで考え 語り合いながら生み出す 学び合いと活動へ

- 疑問やおどろきから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどりつく過程を大切にします
- 多様な人が支え合い、知恵を出し合って、新しい良きものを生み出していきます
- 大切なことはみんなで話し合い、ルールを決めて自分たちで責任をもって行動します
- 地域の人と出会いながら、感じ、考え、地域と結びつきながら活動を展開します

わくわくが広がっていく環境のデザインへ

- 地域の人や企業、大学が、わくわくどきどき学びを提供してくれます
- 保護者が参加してくれたり、手伝ってくれたりします。時には企画・運営してくれます
- 先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に合わせてくれます
- 楽しく学べる ICT 環境やひとりひとりへの支援体制が学びと育ちを応援してくれます

つながりと愛

“いのち”は、生まれてからたくさんの方が協力しながら育っていきます。人と人との関わりが広がる中で生きていきます。地域の人の助けだけでなく、色々な人との交流を大切に、いつでも助け合える関係を私達は目指しています。私達はお互いの弱さを知るからこそ、手と手をつなぐように支え合っているのだと考えました。自分の命も大切にしながらつながりを広げていき、たくさんの方の命について、考えてほしいと思います。(中学校生徒会サミット宣言より)

“いのち”のプロジェクト

子供たちを真ん中に、子供たちの感性を大人が受け止め、子供発の取組を支えます。そして、その思いや取組を学校、家庭、地域に広げ、子供も大人も一緒に“いのち”の取組を進めていきます。

地域 ふるさと 地活

子供たちが地域に出ると ありがとう をいろいろな人からもらえる。子供の力ですごいね と認められる体験に子供たちは伸びていく。地域のために役に立ちたいと活動が始まる。子供たちが地域にでると、地域に活力が出てくる。子供たちの発信の力に地域が動く。大人をプラス思考に、未来思考で突き動かす。

地域では子供たちは素直になれる。家や学校で言えないこともすつと言え。地域の人は、すべての子供をあたたかく受け止めてくれる。

子供たちは地域でさまざまなことを感じ、学び合い、活動へと結びつけていく。子供たちは、地域で自分を認め、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく。

それぞれが歩む世界へ

子供たちは、ふるさと **ひのち** の活動を土台として、その先の世界へ飛び出していきます。そのために、学校、保護者、地域は、子供たちの学びと育ちを支えます。

そして、すべての“いのち”がよろこびあふれる未来の地球社会を創っていきます。

一律一斉の学びから 自分に合った 多様な学びと学び方へ

- ひとりひとり学びへの興味も理解のしかたも違います。自分に合った学び方で学んでいきます
- 自ら設定した目標に向かって、自らの力を最大限に引き出していきます
- 分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土を大切にしていきます

自分たちで考え 語り合いながら生み出す 学び合いと活動へ

- 疑問やおどろきから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどりつく過程を大切にします
- 多様な人が支え合い、知恵を出し合って、新しい良きものを生み出していきます
- 大切なことはみんなで話し合い、ルールを決めて自分たちで責任をもって行動します
- 地域の人と出会いながら、感じ、考え、地域と結びつきながら活動を展開します

第3次日野市学校教育基本構想は、各学校における校内研究で具現化を図っています。校内研究では、対話の時間を多くとるなど、通常の学級と特別支援教室との連携・協力に欠かすことのできない、教職員が日常的に相談しやすい環境づくりも行っています。

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(1) 子どもの特性への理解を図るとともに特別支援教育の視点を生かした質の高い教育を行います。

特別支援教育に関する研修会（令和5年度）

研修名	研修内容（一部を抜粋）	対象者	年間実施回数
転入者研修 転入・新任管理職研修	日野市の特別支援教育	転入者、 転入・新任管理職	1回
特別支援教育 管理職研修会	ひのスタンダード 校内委員会の充実等	管理職（いずれか1名）	2回
特別支援学級研修会	授業研究	特別支援学級担任、 通常の学級担任等の希望者	7回 (知的6回・情緒1回)
特別支援教室研修会	授業研究	特別支援教室巡回指導員、 通常の学級担任等の希望者	7回
通級指導学級研修会	授業研究	通級指導学級担任、 通常の学級担任等の希望者	1回
特別支援教育 コーディネーター研修会	発達検査の利活用 校内委員会の充実等	特別支援教育コーディネーター、 代表1名以上	4回
特別支援教育基礎研修	応用行動分析を生かした指導	初任者、希望者	1回
特別支援教育専門研修	学びのユニバーサルデザイン (Universal Design for Learning (UDL))	各学校で特別支援教育を推進する教員、 希望者	1回

2. 市の取組について

特別支援教育管理職研修会 協議の様子



令和5年度の特別支援教育管理職研修会では、日野市における特別支援教育の進め方や交流及び共同学習について等の講演会を聞いた後、校内委員会についてや不登校を含む特別な配慮を必要とする児童・生徒への対応について協議をしました。

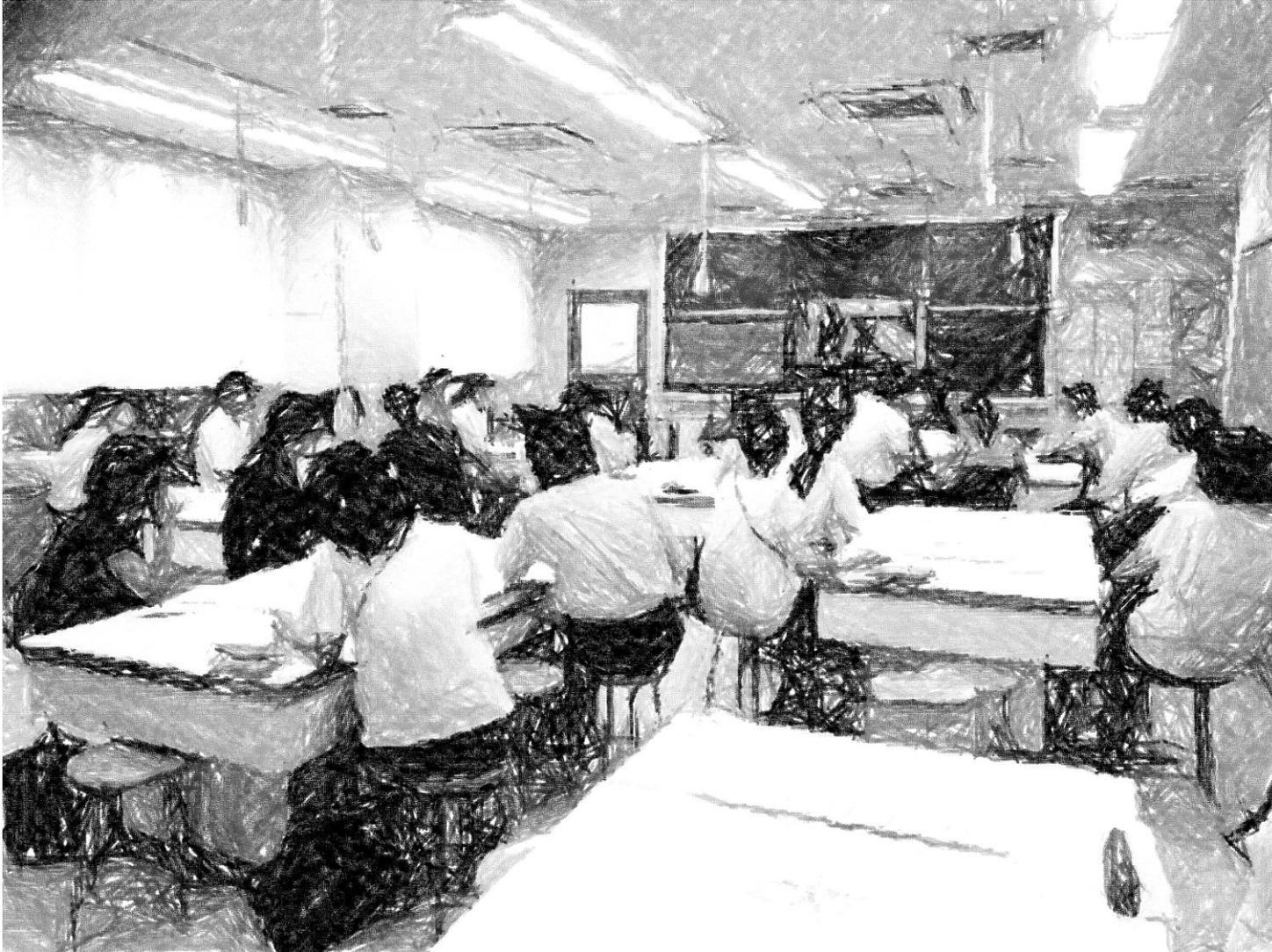


中学校区ごとに分かれて協議をしている様子です。

2. 市の取組について

特別支援教室・通級指導学級研修会

研究授業 ⇒ 協議 ⇒ 講師の先生からの指導・講評



小・中学校の特別支援教室の巡回指導員だけでなく、通常の学級で指導している教員や、養護教諭も参加しています。

小・中学校の教員と一緒に研修する機会を設けることで校種間の指導の交流も行っています。

← 児童・生徒が緊張しないよう、できるだけ日常の授業に近い環境で研究授業を行います。

参観者がオンラインで授業参観をしている様子です。

2. 市の取組について

特別支援教室・通級指導学級研修会

研究授業 ⇒ 協議 ⇒ 講師の先生からの指導・講評



同じ学校の教員がいないグループをつくり、研究授業についての協議を行います。

毎回、参観の視点を設け、研究授業に対する協議を行います。

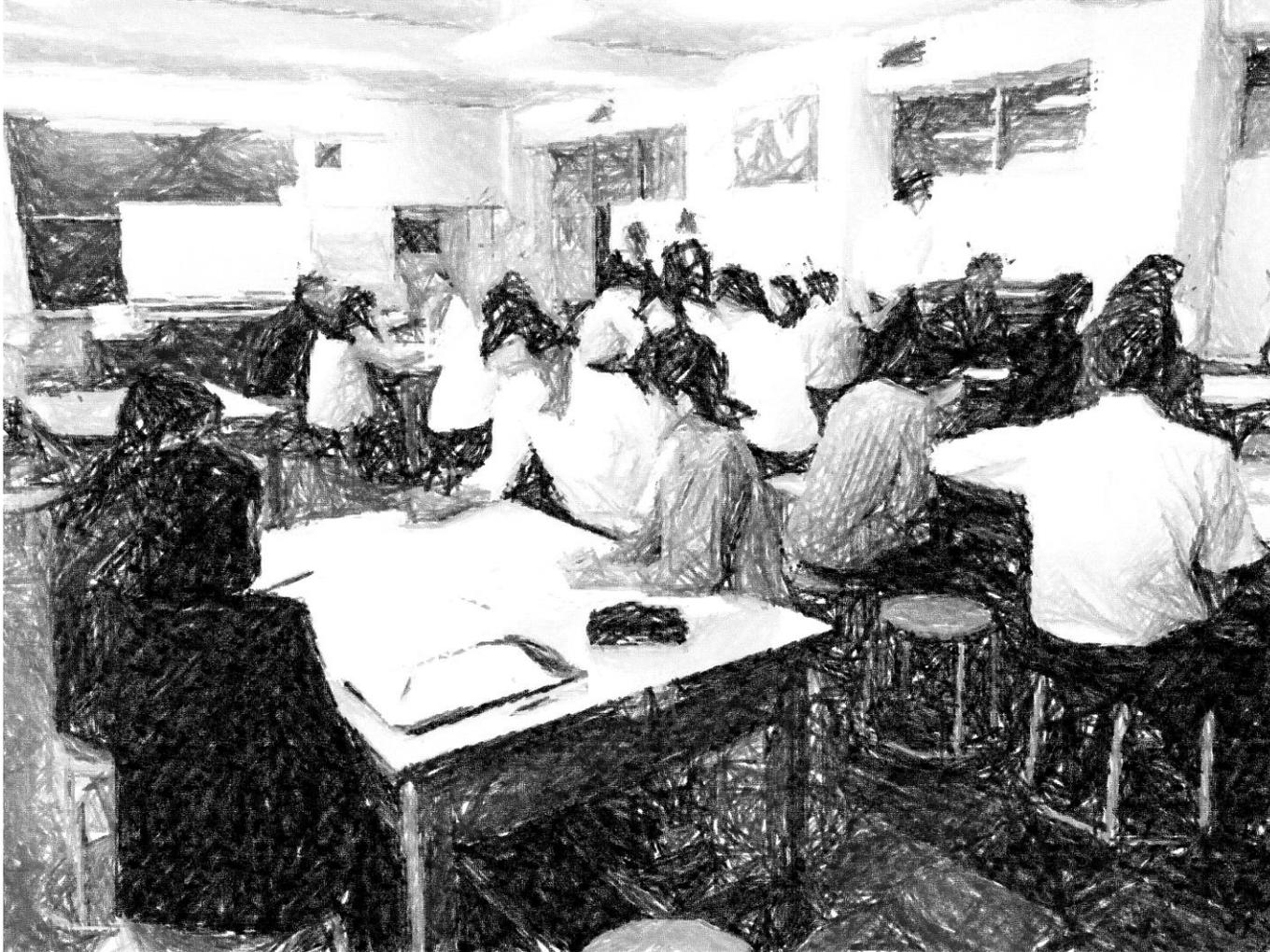
都立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや教員も参加しています。

良かった点、改善点を付箋に記入し、拡大した指導案等に貼りながら協議を進めています。

2. 市の取組について

特別支援学級研修会

研究授業 ⇒ 協議 ⇒ 講師の先生からの指導・講評



研究授業は、学級単位の活動における、個の実態に応じた手だてや、観察児童・生徒の動きに焦点を当てて授業を参観します。

特別支援教室研修会と同様、異なる学校、校種の教員でグループとなり、協議を行います。

心理学を学ぶ大学生や大学院生、教員を志望する学生等が参加することもあります。

特別支援教育に携わる教員養成や心理士養成の場にもなっています。

2. 市の取組について

特別支援教育コーディネーター研修会

令和5年度 第2回 特別支援教育コーディネーター研修会
提出用シート

学校名 () お名前 ()

特別支援教育コーディネーターとしてのやりがいは何ですか。	
第1回特別支援教育コーディネーター研修会後から、コーディネーターとして校内委員会の運営で改善したことがあれば御記入ください。	
2学期は、特別支援教育コーディネーターとしてどのようなことに力を入れますか。	
各学校における特別支援教育の研修会の実施状況について御記入ください。	
ひのスタンダードの推進について御記入ください。 (該当部分にチェックをしてください)	<input type="checkbox"/> 全教職員でひのスタンダードのチェックリストに基づき教育環境づくりを行っている。 <input type="checkbox"/> 全教職員でひのスタンダードのチェックリストでチェックを行った。 <input type="checkbox"/> ひのスタンダードに関する研修会を行った。 <input type="checkbox"/> 転入者研修の動画を全教職員で視聴した。 <input type="checkbox"/> その他 (以下に御記入ください)
副籍交流、交流及び共同学習における成果と課題を御記入ください。	

このシートは提出後、管理職を通して返却します。

発達検査を生かした指導方法、校内での「ひのスタンダード」の推進、校内委員会の進め方、情報交換等を行いながら、特別支援教育コーディネーターとしての力量を高めています。

幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校と、校種を超えた関わりもあります。



ワークシートは、管理職を通して、返却しています。

2. 市の取組について

このスタンダード
特別支援教育における包み込むモデル



すべての子に対して
「特別ではない支援教育」を成す

組織作り、理解・啓発、連携等の
視点で学校環境を整える。

地域環境

学校環境

学級環境

指導方法

個別的配慮

●子ども

場の構造化、刺激量の調整、ルール
の明確化、クラス内の相互理解の工
夫等の視点で学級環境を整える。

時間の構造化、情報伝達の工
夫、参加の促進、内容の構造
化等の視点で授業における指
導方法を考える。

リソースルーム
特別支援教室
通級指導学級



参考:「通常学級での特別支援教育のスタンダード」
東京書籍

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(2) 一人一人の子どもが安心して豊かに学べる教育環境を整備し、特別支援教育推進体制を充実させます。

- 小・中学校の通常の学級及び特別支援教室における指導力の向上、支援体制の充実を図ります。
- ニーズに応じた特別支援学級を設置します。
- リソースルームにおける指導力の向上を図ります。



市主催の研修会だけでなく、各学校においても特別支援教育に関する研修会を開催しています。

日野市では、必要に応じて日野市発達・教育支援センター「エール」で発達検査を受けることができます。また、各学校で発達検査を受けることができる仕組みもあります。

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(3) 幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない相談・支援体制を、市全体で推進します。

- 日野市発達・教育支援センター「エール」を中心に、幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校をはじめ、福祉、保健、医療等の関係機関と連携した切れ目のない相談・支援体制を構築します。
- 福祉と教育が一体となって、子どもの支援情報を切れ目なくつなぐかしのきシート(個別の支援計画・学校生活支援シート)を関係機関と連携し運用します。



かしのきシート(個別の支援計画・学校生活支援シート)は、電子システムを活用して、データでやり取りができます。また、かしのきシート(個別の支援計画・学校生活支援シート)は校務支援システムを活用して入力することができます。

2. 市の取組について

「第6次日野市特別支援教育推進計画」推進目標

(4) 家庭や地域との連携を一層進め、共生社会の実現を目指します。

- すべての日野の子どもたちが共に学び育つことができる共生社会を実現するため、子どもたちに共生社会の理解・啓発を進めるとともに、交流及び共同学習の推進、副籍制度の推進、特別支援学校との連携を図ります。

学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業

ページID1022358 更新日 令和5年9月19日

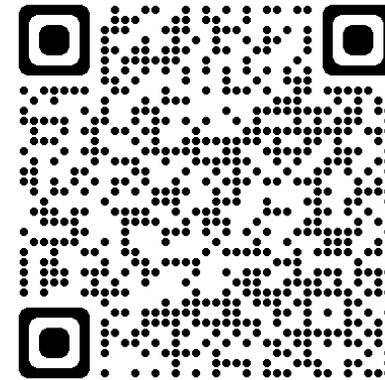
印刷  大きな文字で印刷 

日野市教育委員会は、令和2年度から4年度までの3年間、東京都教育委員会の指定を受け「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」を推進してきました。

本事業では、第3次学校教育基本構想に掲げる「すべての“いのち”がよここびあふれる未来をつくっていく力」を育むという理念に基づき、「共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成」を目指しました。

この度、研究実践をリーフレット、紀要としてまとめましたのでぜひご覧ください。

※研究の中心となった東京都立七生特別支援学校、日野市立日野第三中学校、日野市立夢が丘小学校、日野市立七生緑小学校の4校は、学校間での交流及び共同学習を平成2年から実施しています。



「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」リーフレット及び紀要は、こちらの二次元コードを読み取って、市のWebサイトからご覧ください。

3. 市立学校における実践事例紹介

特別支援教室の理解のためのお便り

きょうしつ
ステップ教室だより
【全校の皆さんへ】

日野市立七生緑小学校
令和5年4月17日
特別支援教室【ステップ教室】

ステップ教室ってなあに？

七生緑小学校には「ステップ教室」があります。1階にステップ教室の部屋があり、個別学習やグループ学習など、その子に必要な勉強を行います。「ステップ教室」は、もっとできることを増やしたい、苦手なことにチャレンジしたい人が通います。担任の先生、家の人、校長先生、ステップ教室の先生が相談して、「ステップ教室」に通うかどうかを決めます。

例えば、次のようなことです。

- ・学校で友達ともっと仲よくしたい。
- ・自分の気持ちを上手に言葉で伝えたい。
- ・話を集中して聞けるようになりたい。
- ・黒板の文字をノートにうつせるようになりたい。
- ・勉強がもっと分かるようになりたい。

ここには、ステップ教室の先生の紹介が書かれています。

ステップ教室で何をやるの？

自分に必要な勉強をします。例えば、次のようなことです。

- ・話し合い活動（みんなで決めたり、自分の気持ちを言葉で表したりする練習）
- ・友達と仲よくする勉強
- ・「聞く」勉強（大切なことを聞き取ったり、聞いたことを覚えたりする練習）
- ・「見る」勉強（文字や形を見比べたり、写したりする練習）
- ・自分の体をコントロールするための体のバランスを鍛える運動
- ・手先を器用に動かす練習
- ・苦手な勉強の個別学習

など、いろいろなことをします。

七生緑小ステップ教室の様子



お願い！

一人一人に得意なことや苦手なことがあります。ステップ教室は苦手なことにチャレンジする教室です。ステップ教室で学習している友達を、「がんばって、いってらっしゃい。」という気持ちで応援してくださいね。

「ステップ教室」のことで気になることがあったら、担任の先生、副校長先生、校長先生、家の人、ステップ教室の先生に聞いてみてね！

「行ってらっしゃい」
「ただいま」

と子供たち同士で言い合える特別支援教室になるためには、教員だけでなく周囲の児童・生徒の理解が不可欠です。お便りを活用して、担任の先生が、子供たちにステップ教室について説明し、ステップ教室の理解推進をしています。

ひとりひとりに得意なことや苦手なことがあります。ステップ教室は苦手なことにチャレンジする教室です。ステップ教室で学習している友達を、「がんばって、いってらっしゃい。」という気持ちで応援してくださいね。

「ステップ教室」のことで気になることがあったら、担任の先生、副校長先生、校長先生、家の人、ステップ教室の先生に聞いてみてね！

「ステップ教室に行って自分の苦手をなくしたい！」
と担任の先生に相談する子供もいます。

3. 市立学校における実践事例紹介

特別支援教室の理解のためのお便り

ステップ教室 便り

日野市立日野第二中学校
令和5年 4月
ステップ教室

担当教員：
専門員：

1 ステップ教室とは
「ステップ教室」は、生徒が学校生活の中で困っていることや苦手を感じていることを改善・克服して、より充実した学校生活を送るための支援を行う場所です。普段は、自分の学級で学びながら、週に1時間又は2時間、自分の目的にあった支援を受けることができます。

○このような願いに応える教室です。

- ・友達との関係をうまく作りたい。
- ・自分の気持ちを整理して、言葉で伝えたい。
- ・学校の授業をより有意義な時間にした。
- ・感情のコントロールを上手にしたい。
- ・身の周りの整理整頓ができるようにしたい。

などです。

ここには、ステップ教室の先生の紹介が書かれています。

教諭 教諭



専門員 ステップ教室

2 ステップ教室で行うこと
保護者や本人の願いやニーズをもとに、必要な支援を行います。具体的には、次のようなことです。

- ・様々な場面で、相手の気持ちを考えられるようにする。
- ・様々な感情について理解ができるようにする。
- ・話を聞き、大事なことについてメモができるようにする。
- ・自分にあった学習の取り組み方を研究する。

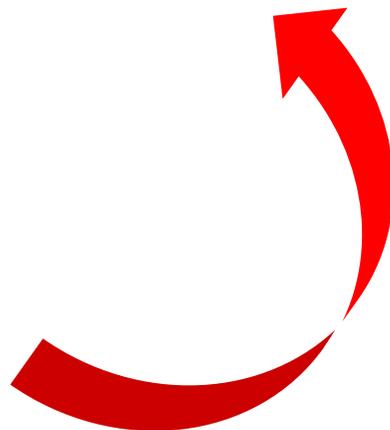
などです。

3 保護者の方へ
ステップ教室での支援を在籍学級での充実した生活につなげるためには、保護者の方や在籍学級担任、ステップ教員の連携が必要になります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

中学校においてもステップ教室便りを配布し、保護者の皆様にも、特別支援教室の巡回指導員と在籍学級担任、保護者の連携が必要であることをお知らせしています。

3 保護者の方へ

ステップ教室での支援を在籍学級での充実した生活につなげるためには、保護者の方や在籍学級担任、ステップ教員の連携が必要になります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



3. 市立学校における実践事例紹介

特別支援教室入室・退室に向けての資料

様式C		令和 年度 校内委員会の記録	
児童生徒の願い			
保護者の願い			
在籍学級での様子			
達成目標		目標の評価	
レベル1 (在籍学級の指導の方法等の工夫)			
具体的な手立て		評価	
レベル2 (学級支援員・学力向上支援者・リソースルームの活用)			
レベル3 (特別支援教室の活用)			
(特に配慮すべき点・支援にかかわる関係機関との連携など)			
日野市立	学校	年 組	担任氏名
			期間 令和 年 月～令和 年 月
整理番号	支援レベル	児童氏名	性別

日野市では、校内委員会の議事録とは別に、特別支援教室入室・退室に向けて、左のような校内委員会の記録を作成しています。

校内委員会の記録を作成することで、担任だけでなく、様々な人が関わりながら支援レベルを確認することができます。

各段階の評価は、指導の目標に対して、以下を基準としています。

- 5 適切で、明らかに改善している。
- 4 適切であり、徐々に改善している。
- 3 適切であると考えますが、改善は見られない。
- 2 改善の兆候は見られない。
- 1 指導方法の再検討が必要である。

3. 市立学校における実践事例紹介

特別支援教室巡回指導員と通常の学級の担任や教科担任との連携

様式 E 年度 在籍学級・特別支援教室連携プラン

在籍校	学級	在籍学級担任	保護者の願い	長期指導目標
	年 組			
児童・生徒氏名		特別支援教室担当		
	指導目標	在籍学級指導の手だて	特別支援教室指導の手だて	評価 (○担任 ●ステップ)
一学期				
二学期				
三学期				

在籍学級・特別支援教室の連携プランを活用しながら、在籍学級の指導の手だて、特別支援教室の指導の手だてを確認します。

これら以外にも日常的に特別支援教室の担任と通常の学級の担任等が情報交換をしています。

3. 市立学校における実践事例紹介

特別支援教室巡回指導員の指導を動画で見る仕組み

0614【ステップ教室】何から運ぶ？

投稿日時：06/14  teacher3

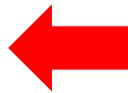
今週のステップタイム（小集団活動）では、2人1組で協力してものを運ぶゲームを行っています。

「せーの！」「低くして運ぼう！」「ゆっくりでいいよ。」

子どもたちからは、協力するための『素敵な言葉』がたくさん飛び出しました！



特別支援教室で作成した「こんなときどうする？」の動画を共有し、在籍学級の先生方が見て指導方法を確認する仕組みもあります。

 学校Webサイトに指導の様子が掲載されています。

4. 学校リーダーとしての特別支援教育コーディネーター

校内委員会（支援委員会）

【参加者】

- ・ 管理職
- ・ 生活指導主任
- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 学級担任
- ・ 学年主任
- ・ 養護教諭
- ・ スクールカウンセラー
- ・ スクールソーシャルワーカー 等

【内容】

- ・ 特別支援教室等の入退室について
- ・ 転学・転籍
- ・ 巡回心理相談
- ・ 実態把握
- ・ 出席状況の確認
- ・ 個に応じた支援について 等



【開催方法の例】

（小学校）

- ・ 毎週15分ずつ夕会で実態把握し、月に2回の支援委員会で特別支援教室の入退室等について検討する。

（中学校）

- ・ 毎週1単位時間校内委員会を開催する。

情報は紙ではなく関係者のみが見られる状態にしており、校内委員会の参加者が会議に持ってくるのは、校務用パソコンだけの状態です。

4. 学校リーダーとしての特別支援教育コーディネーター

校内委員会（支援委員会）

【参加者】

- ・ 管理職
- ・ 生活指導主任
- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 学級担任
- ・ 学年主任
- ・ 養護教諭
- ・ スクールカウンセラー
- ・ スクールソーシャルワーカー 等

【内容】

- ・ 特別支援教室等の入退室について
- ・ 転学・転籍
- ・ 巡回心理相談
- ・ 実態把握
- ・ 出席状況の確認
- ・ 個に応じた支援について 等



【開催方法の例】

（小学校）

- ・ 毎週15分ずつ夕会で実態把握し、月に2回の支援委員会で特別支援教室の入退室等について検討する。

（中学校）

- ・ 毎週1単位時間校内員会を開催する。

通常の学級と特別支援教室との連携には、校内委員会における定期的で組織的な情報交換や日常的な情報収集が欠かせません。特別支援教育コーディネーターは校内委員会の運営だけでなく管理職や主幹教諭との連携、職員室内の人間関係構築、関係機関との連携等、学校組織の中心的存在です。

令和5年度 多摩地区指導主事及び学校リーダー研修会（第3回）
「通常の学級と特別支援教室との連携・協力による指導や支援の充実」

日野市教育委員会の取組
ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に

御清聴ありがとうございました。

参考文献

東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会・小貫悟(2010)『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
小貫悟・日野市教育委員会(2014)『特別支援教育スタンダード校内委員会の1年間月別マニュアル』東洋館出版社